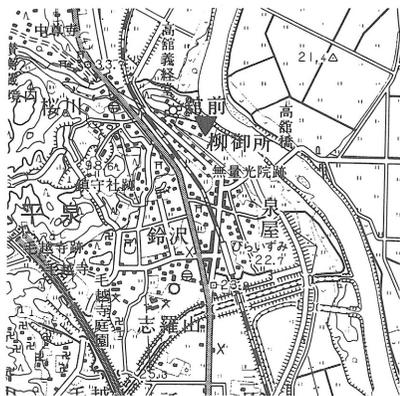


# 岩手・柳之御所遺跡

やなぎのごしよ

- 1 所在地 岩手県西磐井郡平泉町字柳御所
- 2 調査期間 第四九次調査 一九九八年(平10)五月～一〇月
- 3 発掘機関 岩手県教育委員会
- 4 調査担当者 斎藤邦雄・鎌田 勉
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 平安時代(一二世紀後半)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(一 関)

柳之御所遺跡は、平泉町字柳御所から字伽羅楽地内にかけて所在する。JR平泉駅の北方約六〇〇m、平泉市街地の東端に位置し、北上川によって形成された標高二五m前後の低位段丘縁辺部に立地し、その面積は約一一万㎡である。

一九八八年から実施された緊急発掘調査で、遺跡を囲む大規模な堀・園池・塀・掘立柱建物・井戸などが検出され、『吾妻鏡』に

見られる奥州藤原氏三代秀衡の平泉館との推定がなされている。一九九七年度に国の史跡指定を受け、一九九八年度から当教育委員会が史跡整備のための資料収集を目的として、未調査区域を対象に調査を実施している。

九八年度は、以前の調査で検出されていた正方位の軸線を持つ、中心建物群とされる遺構の東側の状況を把握することを目的として、調査を実施した。その結果、これら中心建物群の一部に付随すると思われる塀の他、梁行二間桁行一間の長大な掘立柱建物、井戸などが検出された。

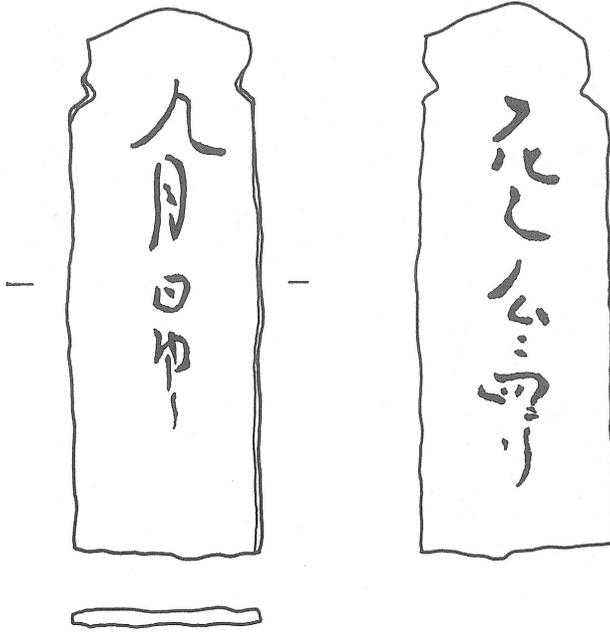
木簡は平面形がほぼ円形で、開口部径四・二五m深さ約三mの素掘りの井戸から出土した。この井戸は人為的に埋め戻されており、本木簡を含め遺物は埋土中位上半部に集中し、同時に多量の完形、ほぼ完形のかわらけ、木質部の残る刀子・刷毛・折敷・曲物の一部、渥美産の陶器片などが出土している。

## 8 木簡の積文・内容

- (1) ・「<math>\sphericalangle</math>□之□□□□」
- ・「<math>\sphericalangle</math>九月日納了」

82×28×2 032

物品に付けられた荷札と考えられる。上端の左右に切り込みがある付札型の形態で、文字の記載は切り込みの下から始められている。表裏面・上端・両側面は調整され、下端部分に切り込みを入れ折つ



た痕跡が認められる。表には物品名ないしは人名に加えて数量、裏面には月日と「納了」の文言を記載したと推定される。これは柳之御所に搬入された物品に付された付札で、その物品が納入された場所、あるいは消費された場所周辺の井戸に廃棄されたと考えられる。積文などについては、東京大学の佐藤信氏にご教示をいただいた。

(斎藤邦雄)